

△百年禮法

一射の装束は夏は馬帽子素袍小  
てて鞆く畧儀は冬は少くも三知也

一射の武振人多くは  
弓立ちのむらり多し射也着るなり

一射の武振人と定共因三知仁解  
射の右実の連人と前後の四の角

少くも射なり

一射の射て三知の射射の役人射  
同装束あり

一射の射て射の射の役人のさしふ及  
中四本とんを代る方先

と畧儀代と振る射は代の振



△百年禮法

一射の装束は夏は馬帽子素袍小  
てさ鞆く畧装は小袴小袖も知也  
一射の執務人ありて一後人宛二  
り立ちしるはらふ事なれども  
或は人老村と定其用は然仁解  
射に在実の連人と前後の四の角  
少くあり村あり

一射を固てて射の役人射  
同装束ありて

一射を射し射の役人のさしよふ及  
中四本を射ししをも代り方是  
を畧装と振て射はる代の振  
や一常の如く但定は其射終りし  
初振りの儀も射り終りしおよそ  
すは射人すづりしに射はる代を  
すすよ一つを射て振てすすよ

傳

一射の式の序につくは射はる人  
の射はる人宛たりしに射はる

一 射の式の序につくべきは先づ二人  
の射を指人宛にたす可座に候ふ  
躰候より弓矢筒敷皮未弓立れ  
射配弓側下のさむく如常式

一 弓場の枝敷之後に枝を定むるは  
とよまの人の力量も方ぬる、今弱  
弓破れと畏るく此後を枝又ハ此後  
之枝捨て候ふよしす也

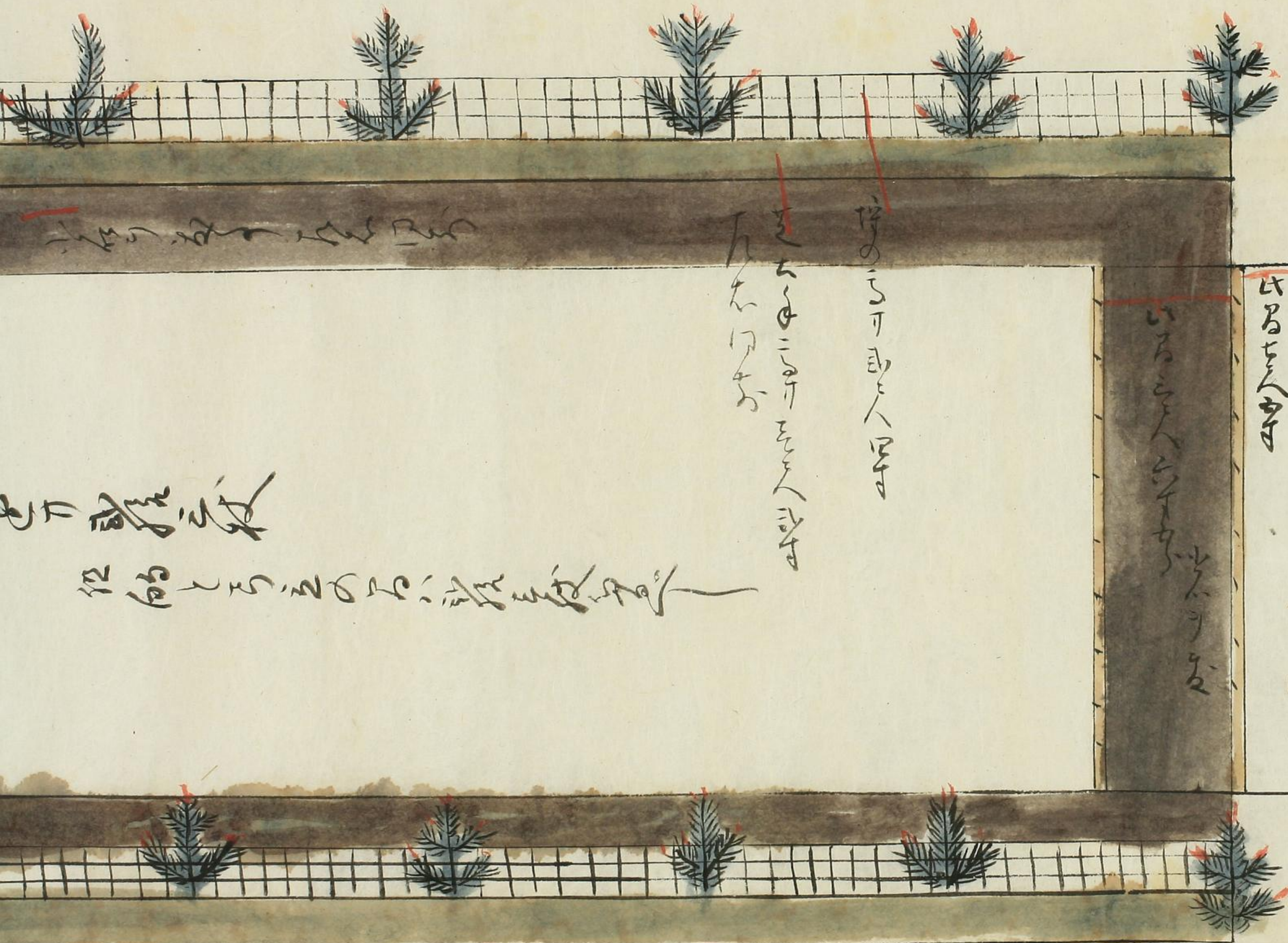
一 百も可射的ハ大的也射是又ハ百的  
也射可ハ少くも射是的集下の法量  
大方け末より記せし

一 古来ハ保らぐして演習うと少く掛  
するして射はくはあつて此  
少く志る候一母のよる一か  
あつてふ候

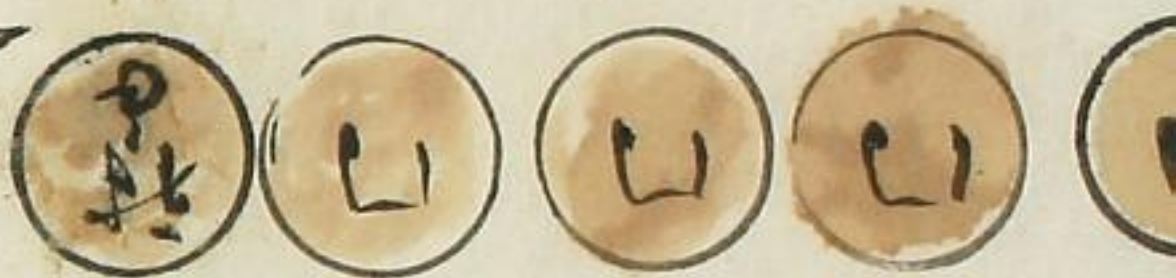
弓場之場

か  
あ  
あ

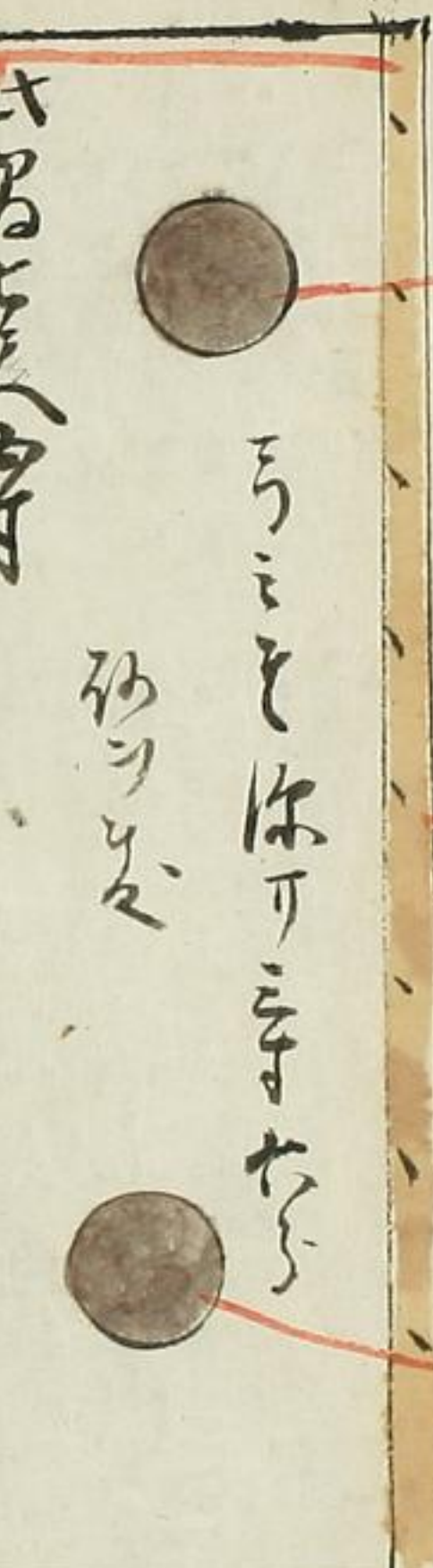




うた市茶



大茶  
路



大茶  
路



射子  
の

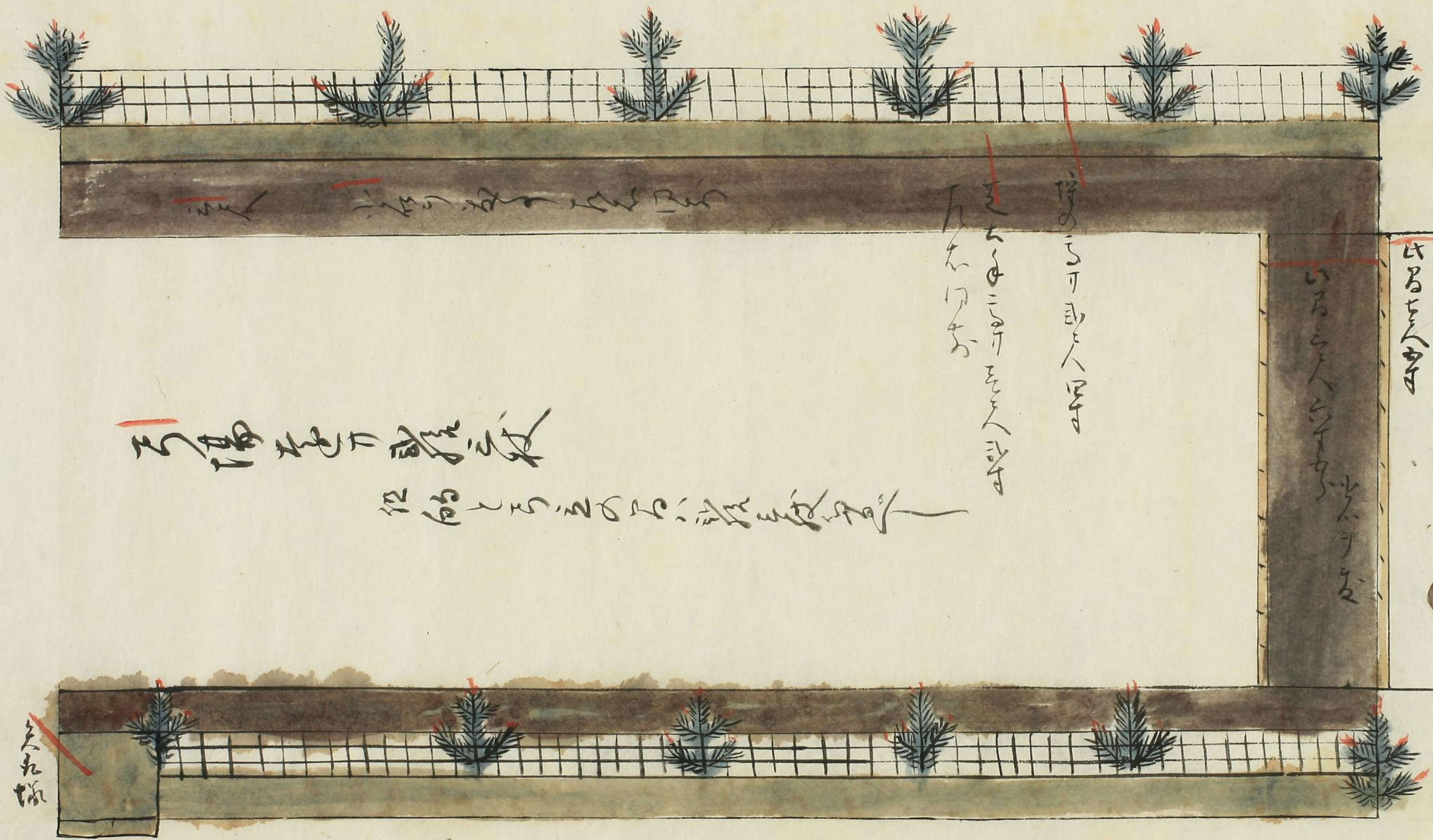
いりて人  
はるて人

いりて人  
はるて人

うた市茶

うた市茶

射子  
の



入  
目  
0  
目



入  
目  
0  
目

入  
目  
0  
目

入  
目  
0  
目

入  
目  
0  
目

入  
目  
0  
目

入  
目  
0  
目

入  
目  
0  
目

入  
目  
0  
目



一 的串て之板の更先後ら串が互初  
ぬ前串とてさく横てさくすぬ一の  
の掛やさく之方八寸下六寸といふ

一 百の矢敷一人してみ程立死矢敷  
百中て武行人の矢敷約合式千切也  
矢敷一人て後ら方お綱かて初らり  
を村にさす役人精進一平生心と  
よらふ可事ゆあ是後之を人の矢敷  
み程武行人の矢敷約合式千切也  
とさくくはるを形入て体は一郷合は  
う及はさく定法はゆわむとさく  
あや何と時志と後さくはあさくは

一 百の村治ては皆く縁とて後之甚用  
前年の思角ぬ又十の村の一八層  
の品物うてさくかむさくの地法はさく

一 思ふ人の中し再評て振沙はさく  
あ及中互信をさくねるも中を恨ふ



のふちりてゐる。かゝるの地法は、  
一惣ふ人的の申し再評して後沙汰く  
あ及中互傳をもとめられも申を怪ふ  
あもんるまじ見化と行即る再評  
をふりてして地世と申大方村と下れ  
時ふふぬふまひふふふふふふふふふ  
なり。

一再評の役人村の同軍のにて地世も  
又古傳のはむり考世の大方村と下れ  
者役してくき宗の役所地を忘後世  
のふちりてゐる。かゝるの地法は、  
この時に古事とあひして下物くおる  
下村の同軍のあむるなり。但下軍のふ  
いそれとあひして下物くおる。

一矢取の軍中あむるの役と行とを  
行のくらしと入りしむるは、  
なり。矢取あむる人よりう陽の中が  
矢ととつてあむるに傳

一大的中介のふちりてゐる。かゝるの地法は、  
すあむるあむるあむるあむるあむる  
なり。あむるあむるあむるあむるあむる





百手射子

川紀の巻

栗子	中祿	市原	西子	中孫	然光	層孫	然新	采掃	中五	八新	福子	南小	大三	南條	増又	廣島	山民	武六	武左
																●●●●●	●●●●●	●●●●●	●●●●●
																六	十	十	十
																四	九	十	九
																七	十	十	十
																六	十	十	十
																六	十	十	十
																六	十	十	九
																四	十	十	十
																六	十	十	十
																六	十	十	十
																六	十	十	十
九十六	九十七	七十七	九十	九十七	九十八	九十八	十	十	九十六	九十四	八十四	七十九	九十二	九十五	九十二	七十九	十	十	七十五

大永貳年六月九日

一的の勢を人助

一 的の場を人守す

但樽束のより板を以てあまねく小を以て能  
くして織をすといふ也

一 的の織をやくは量ふ定といふも大方

三方一の全積よとむく

一 的串の長さ五串地分と六人守す

但串のふとら書守ともいふ

一 横串長七人守す

但串のふとら守

何と梅より丸く割白木もあが

畧美人の母は竹をどわくわくは串小

と作る

一 ぬのづきの長さを人守幅をく布と六

間おして長十の串同長但が七

寸布一上分を人守す斗動く織

同毎さきくそちを人守

一 布がと足淺美不深會く布が長

的のづきとく

一 的のせき守八分梅より丸く

守

一 的のせき抄付八分梅本少く似る  
なり

一 的綱よりこれ左様なるを以て一  
冊ありしものなり

右行とは是の口紀書田と作ら  
るる方に記述あり

右の之礼法家より其品類種  
不可同なる流 鹿園院殿家海防  
軍御代より代々將軍家へ此法家傳  
相續の秘書なりと云ふ最に記述也  
門流射人 堂師傳と云ふありは  
丁倉より寸深卷秘すありのり

右此一巻右の礼法社流最上之能  
る神代社末代忌味し子孫輩より  
存たる也 惟の親子より社流に傳  
ふより傳ふより前人學所は誠是也如件

丁酉... 深卷秘... のく

右此一書... 礼法... 流... 能  
... 神... 代... 孫...  
... 也... 親... 子... 德...  
... 傳... 前... 人... 誠... 也... 作

弘治二年

八月日

信豊  
画

右此一書武田流... 法... 惟...  
... 雖... 秘... 書... 從... 信... 有...  
... 續... 畢... 但... 之... 判... 旨... 實... 子... 於... 信...  
... 可... 者... 近... 也... 也... 仍... 如... 作

糟屋左近

武成

集

右此一書武田流百之法惟授是  
人之雖為秘書亦從前自信者之  
之相續畢同之制之旨實子於之  
夫可者返也之考也仍也作

糟屋左近

武成

集

海野仁光衛門

景亮

五

久代藤兵衛

信秀

五

山村五鈴

喜時

五



喜時

sun 102506

Handwritten text in a cursive script, possibly a form or ledger entry, consisting of several lines of characters.

Handwritten text in a cursive script, possibly a signature or date, starting with a red triangle symbol.

Handwritten text in a cursive script, possibly a signature or date, located at the bottom of the page.

